

令和2年度 天理中学校 学校評価 <教職員用>

令和2年度 天理中学校 学校運営計画			評価 A:きちんと取り組んでいる B:ほぼ取り組んでいる C:あまり取り組めていない D:全く取り組めていない E:無評価	
	重点目標	目標達成の方策	評価	成果と課題
信条教育	「よふぼく」教師であることを常に自覚して、積極的に生徒に働きかける。	1 教師自らが道を求め、折に触れ神様のお話を取り次ぐ。	B	本年度は、世界的に大きな事情をお見せ頂く中での学校生活となった為、朝の学校参拝をはじめ、毎年実施されてきた信条教育行事が相次いで中止となった。この度の事情を通して、改めて、感謝・懐み・たすけあいの心に思いを馳せ、日々の学校生活を通して頂く一年となった。夏休み課題の人権作文では、内容の多くが、当たり前に出ていたことへの感謝の心、周囲への心配りの大切さ、体をお貸し頂いている親神様のご守護の有難さなど、折に触れ教祖の教えを題として書かれているものが多かった。行事こそ実施できなかったが、生徒たちの心に神様の想いが浸透している場面が見受けられた。今後も生徒、教職員一同、より一層親神様、教祖にお喜び頂ける心で、教えを台として共に成人の歩みを進めさせて頂けるようつとめていきたい。
		2 朝の学校参拝を、生徒の手本となるようしっかりとめる。	E	
		3 「おさづけ」の取り次ぎと「お願いづとめ」を積極的につとめる。	B	
		4 ひのきしんの活動に生徒とともに積極的に取り組む。	A	
生徒指導	積極的な生徒指導を行う。	5 規律正しい学級づくりのため、授業終始の挨拶指導の徹底を行う。	A	年度当初に教職員間で次のことを申し合わせ、生徒指導がスムーズに行えるようにしている。問題行動に対して、教員一人で問題を抱えることなく、学級担任と副担任・学年全体・学校全体に報告・連絡・相談を素早くすること。特に初期対応が適切にタイミングよく行えるようにした。さらに、指導経過等を職員朝礼や会議等で速やかに報告し、生徒の現状を全教職員が共通理解できるように努めた。また、いじめに関しては教師側の規律正しい学級づくりが大切であるという確認を行った。生徒に対して学校生活の基本事項として、挨拶・返事・言葉遣い・無言昇殿・授業終始の挨拶の5項目を示し、指導の徹底を行った。年度当初に基本的指導について申し合わせをしたことと、教職員が日々の家庭訪問や電話連絡等により家庭との連携を密にし、細やかな指導を継続して行えていることが現在の校内の雰囲気を作り出し、落ち着いた学校生活を送れていることにつながっていると考えます。 本年度、生徒指導の全ての項目がA評価という結果であった。年々生徒指導が難しくなっていく社会において、全教職員で生徒を育成していく意識をさらに継続して持ち続けて指導していくことが必要である。組織的な対応が不可欠な現状の中で、さらなる職員一人ひとりの意識の向上と教職員間の細部までの共通認識が課題である。 本年度は、コロナ禍により新しい生活様式で生徒たちの生活、行動にも大きく変化を求められた。大きな声での挨拶を控える。ソーシャルディスタンスで集団での学習や指導ができない。学校参拝も本年度は一度も行えていない現状。何もかもが自粛となっていく中、生徒たちの力を発揮する場所が必要である。
		6 部活動指導における生活指導の徹底を図る。	A	
		7 問題行動において、学級・部・学年から学校全体としての組織的な対応を行うとともに、保護者との連携を密にしてすすめる。	A	
	規律ある生活習慣の確立をめざす。	8 服装や頭髪、時間、交通ルールなどのきまりを守らせ、規範意識の向上をめざして日常的に指導を行う。	A	
		9 挨拶・返事・言葉遣い・無言昇殿など、全教員が意識を統一して指導を行う。	A	
		10 遅刻指導などを通して、個々の生徒の心の動きに気づき、家庭訪問を行うなどきめ細やかな指導を図る。	A	
		11 いじめ問題の重大性を全ての教職員が認識し、学校長を中心に未然防止「いじめを生まない土壌づくり」を組織的に取り組む。	A	
いじめのない学校生活をめざす。	12 いじめの態様や特質、原因、背景、具体的な指導上の留意点などについて、職員会議や校内研修などの場で取り上げ、教職員間の共通理解を図る。	A		
	13 いじめ問題を、特定の教職員が抱え込んだり事実を隠したりすることなく、報告、連絡、相談を確実にし、学校全体で組織的に対応する。	A		
学習進路	基礎学力の充実と学習習慣の確立。	14 基礎基本に重点をおき、くりかえし取り組むことの大切さを教える。	A	新型コロナウイルス感染症による休校期間の遅れを取り戻すため、ICT機器を活用した授業を多く取り入れ、休校による遅れの影響はほぼ解消できた。本年度も基礎基本を徹底し、追試や補習を行いながら、基礎学力を高める努力を行った。宿題提出は粘り強く指導し、徹底させることで、宿題提出が習慣化してきているが、宿題の量や期限については検討しなければならない。 進路については、1、2年生に天理高校の説明を担任が行い、本校の進路原則を促すことができた。また3年生には天理高校訪問や天理高校の情報をポスターで貼るなどし、生徒への意識づけを行うことができた。課題は、学習面の充実とともに、個々の徳分をいかす進路を考えられるようにしていくことである。学校教育全体を通じた進路学習の構築を図っていくことが必要である。今後も粘り強く、関わっている教員すべてが情報交換しながら、生徒一人ひとりに合った進路開拓ができるよう取り組んでいきたい。
		15 適切な内容の課題を与え、やりとげさせる指導を行う。	A	
	進路についての丁寧な指導をめざす。	16 管内学校などの進路情報を提供し、生徒の意識づけを図る。	A	
		17 個々の徳分に気づかせ、それをいかす方向で進路を考えさせる。	B	
研修	教員の授業力の向上をめざす。	18 研究授業を実施し、教員の授業技術を向上させる。	C	本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、職員研修等を行うことができなかった。しかし、電子黒板やプロジェクターを用いての授業へシフトした教科もあり、近年急速に進むICT教育に対応する動きも見られた。生徒一人ひとりにクロムブックが配付されることもあり、次年度はGIGAスクール構想を推進するための研修も実施していかなければならない。
		19 計画的な研修を行い、教員の継続的な資質向上を図る。	B	
人権教育	陽気ぐらし世界の実現達成に貢献しうる実践力をもった人間育成をめざす。	20 いじめなど、不合理・矛盾に気づき、正しいことが主張できる態度を育てる。	A	人権教育指導計画に基づいて、人権作文、2学期のいちれつきょうだい学習に取り組み、生徒の人権意識を高めることができた。新型コロナウイルス感染拡大のため、1学期のいちれつきょうだい学習、人権教育講演会は中止せざるをえなかった。新型コロナウイルスに関連する差別・偏見の事象がたびたび報道されたが、日本赤十字社が作成した「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」の冊子を全校生に配付し、朝の会で一斉に拝読して学習し、差別や偏見をなくすことを徹底して意識づけた。いじめ対策については、毎学期、県教育委員会のアンケートや校内アンケートを通して、早期発見、対策に努めた。進路については、自らの進路と向き合い切り開いていけるように、さらにいちれつきょうだい学習を充実させていきたい。
		21 差別やいじめなどを排除し、人の立場に立って考え、行動できる力を身につけさせる。	A	
		22 自分の進路を開拓し、社会の発展に努める力量を育てる。	A	
教育相談	支援を必要とする生徒に対して、教師、保護者、カウンセラーおよびオアシスフレンドが連携を密にしながらサポートを行い、生徒個々の能力を伸ばしていく。	23 支援を必要とする生徒の把握につとめる。	A	本年度も全ての項目がA評価という結果であった。昨年度から体制を整えてきた特別支援と連携をとり、不登校生徒や支援を必要とする生徒の把握に努め、サポートを行った。また、早期対応を行うため、細めに状況を確認し、情報共有できていることが全体の評価にもつながっていると感じる。しかしながら、支援を必要とする生徒が増え、内容も多様化し、教員一人にかかる負担が大きくなっている現状は変わらない。特に本年度は新型コロナウイルス感染拡大による様々な制限の中での生活により、例年よりも不安や不調を訴える生徒が多くなっていくように感じる。そのため、教職員間、特別支援との連携を密にとり早期対応に努めるのはもちろんのこと、これまで整えてきた支援体制を今後さらに発展していくことが課題となる。
		24 支援を必要とする生徒へ、迅速かつ適切に対応し、必要に応じてカウンセリングにつなげる。	A	
		25 適切な支援を行うため、合同カンファレンスを行う。	A	
		26 支援を必要とする生徒への、有効な別室の活用を進める。	A	
美化	「天中は美しい学校です」と言える学校をめざす。	27 感謝の心で活動を実践するよう指導する。	A	本年度は全ての項目でA評価であった。日々感謝の心で自ら進んで一生懸命清掃することを指導していくことが、美しい学校だと感じることができることへとつながっていくため継続していきたい。また、綺麗な状態を維持できるような美化活動を今後考えていきたい。
		28 一生懸命行う素直な心と、自分で仕事を見つけ進んで努力できるように指導する。	A	
		29 美しい学校だと感じることができる環境をみんなで創る。	A	